



題字 井口 文章
再刊 第247号
印刷・発行
錦城高等学校新聞委員会
編集室 2017

みんなでつくる
錦城高校新聞

一面：生徒会メンバー決定
錦城生、部活動で活躍
二面：女流棋士に聞く、人生の選択
合唱祭、様々なジャンルのクラシック

「生徒との距離を縮める」

新たな生徒会始動

11月8日(水)に立会演説会・生徒会選挙が行われ、新役員が決定した。新・旧役員が集まった引き継ぎ会では、スクールバッグ改善や活動方針などが話題にのぼった。今までの反省をどう活かしていくのか、新役員の方針の活動に注目だ。



生徒達が注目する中、壇上で熱い思いを語る生徒会候補者たち

新生徒会への引継ぎ

11月14日(火)に和室で行われた生徒会の引継ぎ。今後の生徒会の活動方針などについて話し合いが行われた。前生徒会長の高橋夏音さん(3D)は最初に「全員のやりたいことがそれぞれ違うかもしれない。自分の意見も出しつつ、中央委員会として何がしたいかを考えてほしい」と話した。「ただ『これをやりたい』と先生に言うだけではない、どのようアプローチすればやりたいことを実現できるか、見つけることが大事です」と伝えた。



前生徒会長の言葉を真剣に聞く生徒会メンバー

～新生徒会役員演説より～

生徒会長 村本夏望さん(2A)
「今何人がつらいかと思ってるでしょうか」と始め、会場が静かになる。前副会長として前期生徒会の反省を述べ「生徒会は学校を変えるため、生徒一人ひとりの意見に寄り添いたい」と締めくくった。

生徒会副会長 松本千冬くん(1H)
一度きりの高校生活を無駄にしない、という理由で立候補した松本君。「生徒が校則を破ってしまっているのは、今の錦城を面白くないと思ってるから」と言い切る。「錦城を変えます」と真摯に述べた。

監査委員長 小嶋祐輝くん(2A)
携帯許可を例に挙げ「今の生徒会は生徒会の活動をさきと生徒に知ってもらっていません」と指摘。「生徒と生徒会の距離を近づけます」と宣言し、生徒のために生徒会活動をしていくと公言した。

監査副委員長 小林俊介くん(1A)
各部活動・同好会・委員会へ予算が足りていないのアンケート行ったり、どのように予算が使われているかなどの調査をしたり、生徒会の活動を広げていくと話した。「母校をより誇れるような錦城にします」と熱く語った。

錦城祭実行委員長 近藤佳さん(1B)
今年の錦城祭の反省点(み)の別ができていない、今年の錦城祭のテーマが意味不明などを挙げ、今年の4月から錦城祭実行委員会が活動してきたことを強みに「今まで以上に皆で楽しめる錦城祭にします」と宣言した。

**「投票が正確に行われるよう来年へ」
今回の選挙を振り返って**

選挙管理委員長
今回の生徒会選挙について選挙管理委員長の寺島日菜子さん(2C)に話を聞いた。立候補の反省点として、たまたまに演説に盛り上がり、生徒が話を聞いていたという思いが「来年はできるだけ無効投票が少なく、正確に投票が行われるように、来年度の投票用紙の記入方法は、投票用紙の記入方法は決まっています」と話した。

最後に「来年はできるだけ無効投票が少なく、正確に投票が行われるように、来年度に近づけたらいい」という意見が出た。一方で、投票箱の製作には大きな労力がかかるなど課題もある。

選挙反省会
11月16日(木)に書道室で選挙管理委員会の幹部が今回の選挙の反省会を行った。挙げられた反省点は、立会演説が候補者が規定の時間を超えて演説を続けたことや無効票が多かったことなど。幹部管理委員会の動きに期待した4人が顧問の大崎拓海先生(藤・日・巴)。

今回の選挙も無事に終わったものの、無効票の多さなどが反省が残った。来年度はより良い選挙が行われるよう選挙管理委員会の動きに期待した。

快撃しぎとぎと錦城の秋

将棋部 関東・全国大会へ

11月3日(金)に都立大泉高校で行われた2017年度関東・新人大会東京都予選に将棋部が出場した。女子個人の部で第3位となり、12月の関東大会、1月の全国新人大会に出場を決める第28回関東大会に向けて、「実力が足りない部分がある」と池崎可南子さん(2E)は、「他校に強い1年生がいて全国に進めないかな」と意気込んだ。池崎さん「思ったのですが、想像以上の結果が出て良かったです」と、来年大会を振り返る。



関東大会に向けて意気込む池崎さん

普段は対局や「駒落ち」と呼ばれるハンデ戦などの練習をしているそう。「とんちんかん」な質問をしても丁寧に教えてくれます」と部員に対して感謝の気持ちを表す。

ハンド部 初のベスト8
11月18日(木)の東京都高



都大会ベスト8に喜ぶ3人

部長の秀徳さんは「新しいチームとしての初めての公式戦でベスト8として結果を残せて良かった」と語った。また川村さんは「目の前の一つひとつの試合に勝つことを考えてやっていたのでベスト8という実感がありません。普段から男子とも練習することで速い球にも冷静に対処できるようになったと思う。」

兼全国高等学校ハンドボール選抜大会都予選にてハンドボール部女子が初のベスト8に輝いた。部長の秀徳さん(2B)、部員の香山素子さん(2B)、川村はなさん(2B)ら3人に話を聞いた。

新生徒会今後新聞委員会
新生徒会の活動を取り上げていく。新メンバーのこれから取り組みに期待したい。

挨拶の徹底で不審者対策を

錦城の安全を守る警備員

錦城では夏休みから警備員が配属され、10月から正式に常駐となった。それに伴い警備員小屋が設置された。警備員の草津誠一郎さんに話を聞いた。草津さんによると草津さんは週5日、仕事をしており、主な仕事は錦城生への挨拶や、正門の施錠、来校者への対応だという。朝、帰りの挨拶では、錦城生は挨拶を返してくれる生徒が少ないという印象を受けた草津さん。「夏に比べたら徐々に増えてきているが、それでも半分くらいの生徒しか返してくれない。警備の上でも挨拶はしっかりしてほしい」と語る。草津さんによると、錦城内で声掛けが増えるだけで不審者への対策となるそうなので、まずは挨拶を返すことを徹底しよう。



警備員が常駐となるため設置された警備員小屋

むらさき草
ある日の学校帰り。いつも通り電車に乗ると、普段よりやや混んでいた。何かあるのかと調べるとその日はプレミアムフライデーだった。実際にどのような内容なのか疑問に思い調べてみた▼プレミアムフライデー(略称「フレ金」)は政府・経済界が提唱し今年2月に始まったキャンペーン。主な目的は消費喚起と労働改革で、月末金曜日に15時退社して夕方レミアムフライデー推進協議会の文庫によると、初のフレ金で早期退社した人は17%。先月は11%と減少している▼このような結果が出たのは実施日に問題があるという。産経新聞グループのサイトによると、年度末やGW前の目立たないフレ金をサラリーマンは意識せず、何もせずに帰ったため浸透しなかったそう。さらに早く帰っても仕事量は減らず、別日に残業が必要である。これでは労働者の負担は変わらず「二兎を追う者は一兎をも得ず」だ▼ところで錦城生はどうだろうか。筆者は日々勉強や部活で忙しく、休養があまり取れない。夜遅くまで勉強していることもあるため、教室で眠くなることもしばしば。睡眠を削ってまで勉強しているが、睡眠時間は記憶が整理される時間。そんな大切な時間を削ってしまうのは勿体ない上、そのせいで授業中寝てしまったら一石二鳥とはならず、フレ金と同じになってしまう▼そこで朝早く起きて勉強するのはどうか。茂木健一郎の著「脳を活かす勉強法」によると、朝は情報が整理された状態のためより集中して勉強できるという。眠気や疲労を感じたら無理せず寝てその分早起して勉強すれば、授業に集中して臨むことができ、まさに一石二鳥▼先程言ったように日々忙しい錦城生。その中休むためには、睡眠は眠気や疲労を感じたときに取り、自分の負担になるフレ金にならない。「一石二鳥」な休養を取るのが良さだ。